

経営者への活きた言葉

上司は部下に対し言うべきことは嫌われも言うこと 高柳 正盛(日経トップリーダー編集長)

1. 「上司は部下に嫌われてもいい」。日頃取材をしていると、こんな話をしばしば耳にします。果たしてそう言い切れるでしょうか。私は「嫌われるより好かれる方がいい」と考えます。
部下に嫌われると、往々にして無用な反発を招きます。「あい手(上司)の言うことに従うが、最低限のことしかしない」「プライベートでは絶対に口を利かない」などと、若い社員が言っているのを聞いたのは1度や2度ではない。
2. では、なぜ「上司は嫌われていい」と言われるのか。どうもその真意が曲解されているケースが多いような気がしてなりません。
重要なのは、「上司は部下に対し、言わなければならないことは嫌われても告げなければならない」ということです。普段から嫌われても構わないということではありません。
3. 上司と部下の間に必要なのは「信頼」にほかなりません。部下に媚びる必要はありませんが、それを築くために上司が努力しなければならないのです。「おれは社長だから」「上司だから」と地位にあぐらをかいている人に、忠誠を誓う部下はいないのです。

(参考:「日経トップリーダー」2011年7月号)

ワンポイント経営アドバイス

先を読む経営

1. コーヒーの値上げに踏み切る外食業が後を絶たない。今年2月スターバックスコーヒージャパンがショートサイズなどを10~20円値上げしたのに続き、6月には日本マクドナルドもSサイズを20円値上げした。その背景にはコーヒー豆の価格高騰というやむをえない事情もある。
「企業努力で賄える範囲を超えている」(コーヒー国内大手メーカー)。
実際、コーヒー豆は昨年に比べて2倍以上に高騰。
2. そんななか、ドトールコーヒーは「豆の価格が高騰したという理由だけで今すぐ値上げするようなことはしない」と、価格据え置きを明確にした。ではなぜドトールは静観していられるのか。
同社は、豆の価格高騰を見越し、店舗修繕などにかかる今期分の経費を前期に前倒ししている。人員の見直しや本社経費の削減などもさらに進める考えだ。

(参考:「週刊ダイヤモンド」:2011年6月25日号)